

様式2 輸出事業計画

※申請者名：農事組合法人富山干柿出荷組合連合会、品目：柿加工品

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・（農）富山干柿出荷組合連合会は、干柿の食品表示の適正化や賞味期限の延長により、台湾を中心に「富山干柿」、「富山あんぽ柿」の輸出に取り組んできた。
- ・「富山干柿」（GI登録済み）、「富山あんぽ柿」は他産地の干し柿に比べ大果であることに加え、甘みが強く、富山県を代表する特産品として「富山県推奨とやまブランド」に認定されるなど、県内外で高い評価を得ており、台湾でも高い人気を得ている。
- ・しかし、近年、生産者の高齢化や後継者不足等から、生産者数が減少し、産地の弱体化が懸念されていることから、令和3年に「富山あんぽ柿共同加工施設」を整備した。
- ・以降、台湾、香港への輸出量増加をはかるとともに、令和5年には、カナダへの試験輸出を開始している。

【課題】

- ・輸出拡大のため、以前からの輸出先である台湾、香港への出荷量増加に加え、新たな輸出先としてカナダ、タイ等をターゲットとした販路拡大を図る必要がある。
- ・原料柿の安定生産のため、近年、多発する病虫害への対策が必要がある。
- ・近年、干し柿の乾燥時に必須である練炭が高騰し、能登半島地震の影響による専用コンロ台の入手が困難な状況であることから、新たな乾燥技術の確立が必要である。



富山干柿



富山あんぽ柿

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・新たなターゲットであるカナダ、タイ等でのニーズ・輸入規制等の調査・対応、ビジネスパートナーの発掘を行うとともに、「富山干柿」「富山あんぽ柿」の認知度向上のため、市場イベント等プロモーション活動を実施する。
- ・販売期間拡大を図るため、冷凍・冷蔵輸送・販売を検討する。また、輸送量増加を図るため、地元港湾の活用を検討する。
- ・近年、被害が拡大傾向であるカメムシ類や炭そ病等への効果的で効率的な防除技術を確立する。
- ・練炭の使用量を低減した持続的な乾燥技術を確立する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

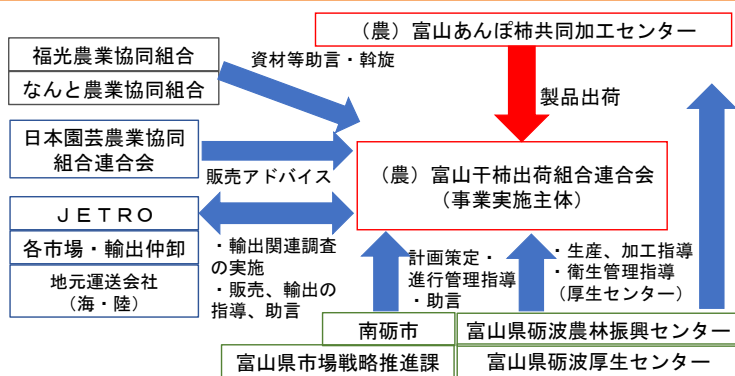


図 富山干柿等輸出促進協議会事業実施体制

4. 輸出目標額

	現状（令和5年度）	目標年（令和9年度）
輸出額(千円)	90,334	150,000
輸出量（個）	414,500	690,000
輸出先国	台湾、香港	台湾、香港、カナダ、タイ